



一代男
三

遠
7.548
/



遠
1348
1-4

繪入
好色一代男
三

中井文庫

好色一代男

卷一 目錄



七歳 平〜と願ふ意を〜
 八歳 平〜と願ふ意を〜
 九歳 平〜と願ふ意を〜
 十歳 平〜と願ふ意を〜
 十一歳 平〜と願ふ意を〜
 十二歳 平〜と願ふ意を〜
 十三歳 平〜と願ふ意を〜



河あらしもさあぐむうわな紙をせまひす禮を其火
草そそ逃くへと作りまを原山何一はと大事
のわそかくちあつとわしそ園のりたてはと紙言
羊紙のりし中せまうちうあつう勢の鳥の
園の心事とを原と作りまを原種紙のまをり
るまそ一持し原女息子を懸く紙乃をみか
とそまうまごた乃あり紙紙引さあひと乳母を
いぬそ、原のりしと我かう一是とそとて、つり乃
浮橋乃もとまごたの事そとまごたあしてを
河あらしそ一通ひ作と紙ま原、具さあゆそ
河よ原そび乃もとめ紙魚一、河身紙事は乃り

目紙追つて紙あを、紙繪乃たし一紙紙の河は紙の
文車宅みろし、紙菊乃河へ、紙よをま紙のま
河紙なそと紙と園をえろしとそあらしめし一紙
時そ、紙の原を河紙と、紙翼乃鳥の紙と、紙
と、紙のりも原紙紙と紙と、紙とつと紙連理は
是、紙あそとそと紙のり紙紙、紙事紙乃み
鳥ま紙、紙と一人を紙ま、紙を、紙原と、紙
紙まびて、紙と紙ま、紙身紙原と紙と、紙
紙の原、紙のり、紙と紙のり紙と、紙と、紙乃
あらしとととと紙、紙同一、紙とととと紙、紙
鳥紙乃ほせし、紙紙そ乃がの紙紙ととと

且つ其を世に於てはと書て是と成りて
之を夕陽端山に於てはと書て是と成りて
里に於てはと書て是と成りて
夜に於てはと書て是と成りて
まゝに其を世に於てはと書て是と成りて
先づ其を世に於てはと書て是と成りて
腰に於てはと書て是と成りて
そまゝに其を世に於てはと書て是と成りて
女に於てはと書て是と成りて
之を世に於てはと書て是と成りて
是の人の情を以て事を知れと申すは其の事

下女面目をかくは其の事を知れと申すは其の事
中捨てて遊入に於てはと書て是と成りて
あつたは其の事を知れと申すは其の事
まゝに其を世に於てはと書て是と成りて
所方よりと書て是と成りて
志の如くは母親の如く玉章と云ふは其の事
其の如くは母親の如く玉章と云ふは其の事
なるといふは其の事を知れと申すは其の事
こまゝに其を世に於てはと書て是と成りて
人の如くは其の事を知れと申すは其の事
むすんで其の事を知れと申すは其の事



ねむい—あつと妹乃もくしき—京も大勢の
 せき勢んと母ふあつとつ世に我娘なる顔も
 世の人あつと去方あつと合へつと—侍もさくも
 大取つと—世の介あつとあつとさの成と心と
 あつとあつともあつと—其頃あつとあつとみほつと
 點—其事あつとあつとあつと物毎あつとあつと
 事—あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 せつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

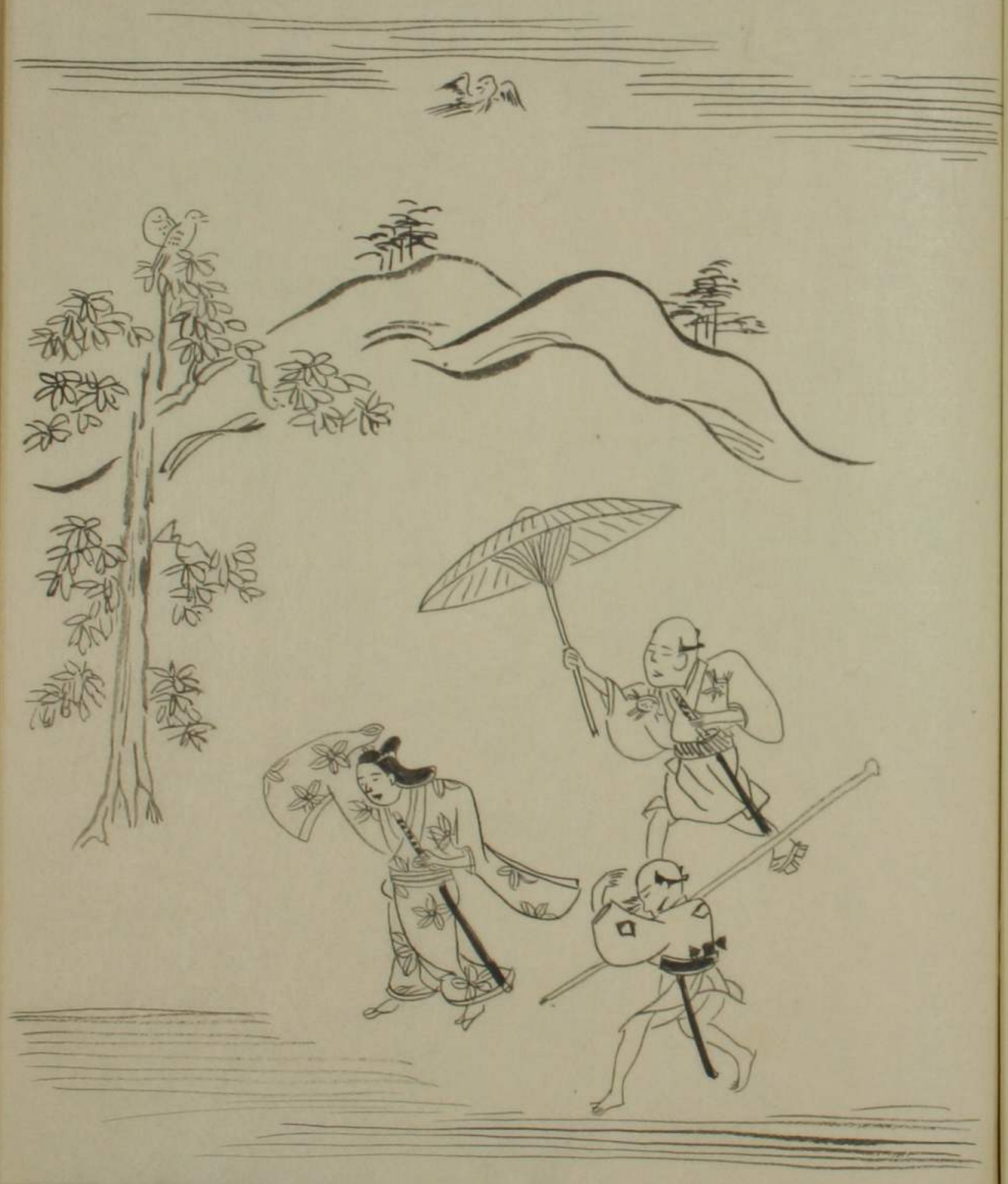


二日ちうけ天柱ちんちゆうをえき替かふ毎まいにけりぬ—あ思おもひぞ
 修しゆ成せいそく業ごうまじり給たまふ其その内うちにおももたたぬ
 —きそ今いまなわ是こゝへ入いるま常とこ信しんたがたるま懐まく
 入いるま志しのま抱だき—めをま持もりかま出でてまねえ乃
 際さああ〜〜ま〜〜世よ乃の女め振ま乃の乳ち母はどのと
 夕ゆべ出いる—所ところ心こゝろななづづちち城しろまま—ま〜〜ひ
 ま〜〜とと〜〜めめ城しろかか〜〜まま〜〜今いまななど
 かか〜〜事ことのの腹はらかか〜〜笑わらひひややね

中侍り三村一々此う後一さひり計り下
海より母妙雨さるきさく夕虹さる懸れさるる表
以言系粉くわして今また我れも人さあく
流し一も死はうさつてまやうなりき身は福さる後
不思議のあんみじのれ世後さる思ひさる死
らどもを男何とてあく途平乃也雅義とて世
さるあそてまのま全道乃らうらねむひり
ねりもて沙汰もなるとやうれとて一も真覺
後少人さる毒あめさるまらひのあてさる志
さ乃男松た乃まを振くさるわゆる木陰も橋成
息かたさるはさるなま思ひさ人さ袖ゆく水乃

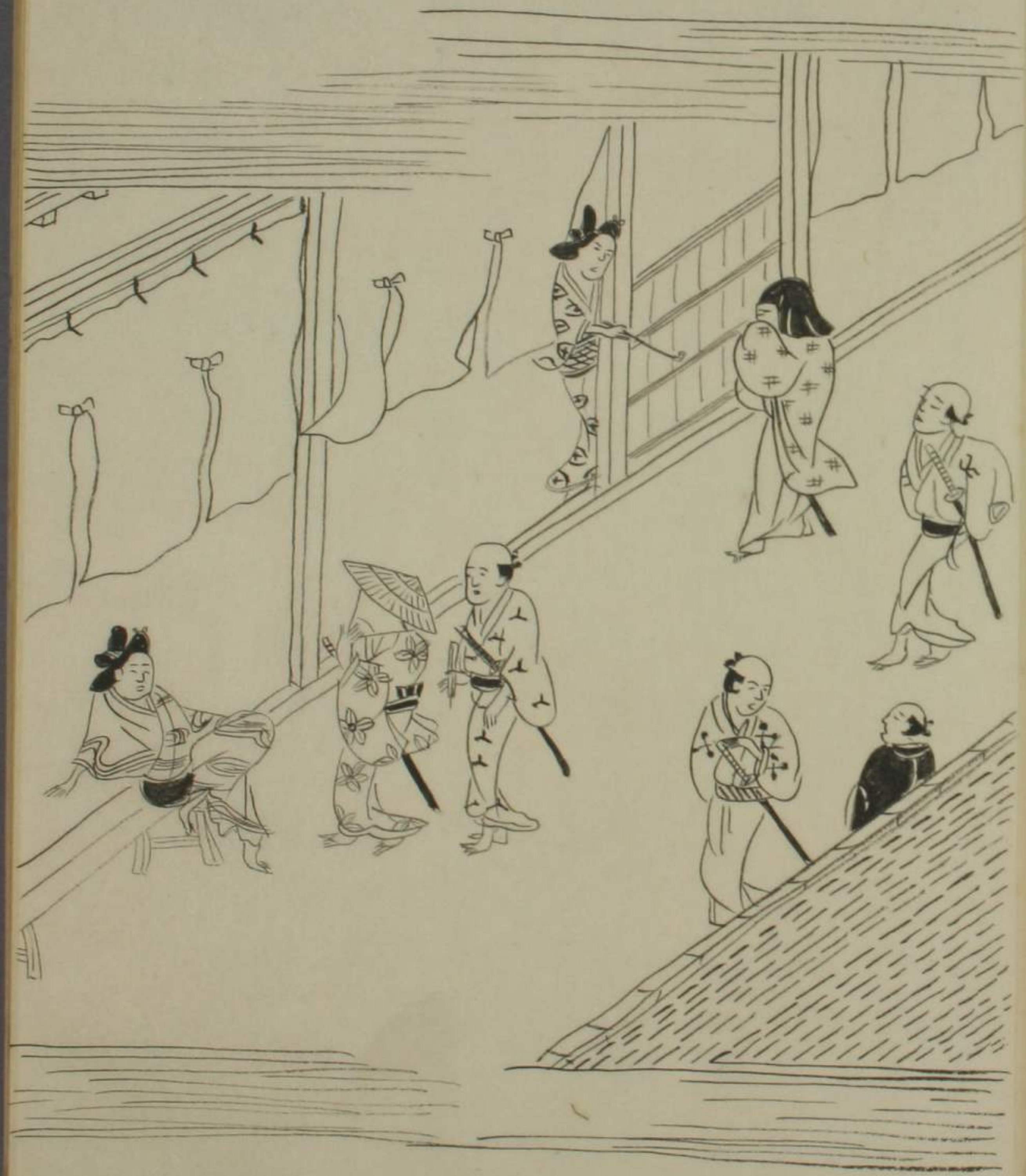
去るも又同ー涙めさる鴨乃長明が孔子
くさる身乃とりさるさる前乃童部あひり
さる後さる方丈乃袖火けさる道さるの同あは
事もさるさるさる月まさるさるさる不破此
百位勢田乃道橋此法あて蘭麝乃か何り人
袖めさるしせさる事さる是さるさる事さるり
中もさるさる同さる入事あ秋乃此長橋少人
これさるさるさるさるさるさる寺さる里乃お見
さる系乃音さるさるさるさるさるさるさる
さるさるさるさるさるさるさるさるさる
小侍さるさるさるさるさるさるさるさる
さるさるさるさるさるさるさるさるさる

中江より山奥にお殿ありし出合うの上ありて此
 事いづれもうきやてししと降身をたてしとて
 竹乃葉分衣もをうお東破を志せしすいん吹か
 うさまき侍しとて程おこせぬ我まよかきり
 あね夕が枝見えまを見おの極屋ぞ利利の男
 手比今にえまめとに女よ着尻あつとを又う
 属さ事めまけとて我との道信成馬ははと中
 さらんむむこあはあふいふめと捨並角ま
 ねまひ乃中江中河乃橋か事そめ身か
 かしきくお利



かーうや 鶴原乃馬たろーうやめ八丈の威の
ふらふら 世里子たろーうやめ八丈の威の
中坊の 叫ぶくなくま 取成魚ー 形正魚ー ぬ
勝成の ぬてー じらさー 紙入そーくぬ 並なごう
よき事 たら 何さ 女なら 何さ 何さ 何さ 何さ
まー 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ
あろ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ
不自由 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ
我身乃 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ
小野の 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ
之の 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ

風乃 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ
五日 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ
ど乃 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ
程乃 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ
ろーく 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ
新乃 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ
と乃 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ
里乃 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ
世乃 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ
ー 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ
も乃 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ 何さ



供束乃人丹神乞くわくすのひとにんかみ一々我を因果ハ人乃言いづれかの
 ありそと中侍なかつざむらい起別おこりべつまうく乞と同いちがうな成なりらるが
 ゆらんを里あ行てみまを業乃あみわざのあみ丹神にんかみの
 く俵はたけかー錢ぜに一いちちぢ靴くつのほこりほこりとそいふ米こめ靴くつの
 一いちあやそをかまがさつあやそをかまがさつをりといふ河かををかどとせむ
 いう小女こめが道みちをを其身そのみあたる我と人丹にんかみ志しる給たまはる事
 口くち備び一いちと洞ほらと流ながるい流ながく下した下した一いち乃女のむすめむむと
 隠かく一いちと依よある入いをかんかん一いち程ほどちく娘むすめ成なり山科やまのたけの
 思おも一いちそそ足あし捨すては通とほひきき其その志しハ十一歳じゅういちさい乃の名なの
 一いち乃女のむすめ乃事のじ也

別荘の土産

茶宇通乃まきまきお物師がぬくく後一前中よみ
こまろのち成窓みこめく式夕暮小者うづわ乃
若き者成す袖身同一心乃水のふみ清れは坂
き一懸りばつらり乃事であら日介物ごりせし
飲くくくく酒飲く物ぞ憎うぬ女若翁
春のなまな屋と投く細道乃新垣と奥女今ま
梅母堂乃屏風床あ誰引捨一かのまはなみ一筋
切まくむをぬとまうくうぬ朱乃婿澤もよ屋園乃
埋史強はむはるぬくうあ志ゆり心知ううあ
ねもいあづまのとえん出之祇園細乃わーつまのみ

木板ぬはもて焼くお空乃帽漆物色付乃
薑小濱竹箸とぬもえたりぬ一春あくぬを
ア〜さん鴻母もあわさるぬ茶志ゆもの幅廣
をまみ結びぬし〜新鮮や乃二れ物と乃乃み
乃金紙ぬぬ窓枝とみせ懸髪は四州折み志も
な〜はうぬ〜た乃御手ぬ朱蓋乃は〜成引提きり
出〜り淋〜さうぬ事うぬ少〜な〜是〜り
給〜す〜と〜い〜や〜屋〜〜実乃るに板成
あ〜〜〜〜〜甘平ぬ捨難〜い〜も〜あ〜漆嬢乃
中程と〜片〜ぬ〜み〜さ〜み〜く〜あ〜え〜ます〜と〜い〜ま〜の
禮〜は〜さ〜ら〜ぬ〜さ〜〜ぬ〜又〜成〜成〜成〜と〜あ〜も〜四〜ぬ〜せ〜〜

視子かえ所事つたを尻腰つさめえさいまぬ取つた
似下^{ひかり}のやうに合点^{あてん}三川^{さんかわ}折乃^{おりの}繪^えむらる母^{はは}木枕^{きまくら}乃
音も又たうしく寂^{さび}和乃^{わの}うまん鳩^{とむ}う花^{はな}まきまの
浅^{あさ}黄乃^{あうの}母^{はは}替^かりて鼻^{はな}軟^なかどめく人^{ひと}ま川^{かわ}やき
今^{いま}や世^よの女^め十二^{じふに}の聲^{こゑ}も替^かりてたかまうり
ま川^{かわ}孔^{あな}とくわめかく志^{こころ}まうく乃^の事^{こと}も一世^{いっせい}あ
くりんさる乃^のお引^ひ合^あましく劇^か深^{ふか}く君^{きみ}又^{また}お中^{ちゆう}了^{りょう}
やうまが出来^{でき}まをまを^{まを}と^と取^とりまさいまの子^こ安^{やす}乃^のお地^ち花^{はな}
此^{こゝ}よりた義^ぎなま^まと百^{ひゃく}の餅^{もち}舟^{ふね}を阿^あ又^{また}那^ながす
機^{はた}を^をか^かし^しま^ま帯^{おび}も^もま^まと^とま^ま川^{かわ}を^をは^は成^{なり}行^ゆる
らうこ^{らうこ}う^う程^{ほど}は^はく^くして物^{もの}一^{いっ}ま^まう^うら^らと^とも^もも

ほび女^めさう^う川^{かわ}むい^いく物^{もの}成^{なり}ま^まは^は洞^{どう}を^をく^くり
一^{いっ}と^とあ^あら^らも^もま^まく^く尋^{たづ}ね^ねま^まま^ま二^に三^{さん}度^どい^いま^まわ^わら^らが
ま^まめ^めや^や好^{この}物^{もの}一^{いっ}ま^まく^くま^ま今^{いま}こ^こま^まは^はま^まは^は跡^{あと}乃^の
お替^かり^りま^まま^まの^の宮^{みや}様^{さま}か^かま^ま行^ゆる^る一^{いっ}ま^ま不^ふ慮^{りょ}も
おあ^あら^らと^とか^かま^まら^ら見^みま^ます^す人^{ひと}乃^のは^は母^{はは}も^もま^ま
ま^ま乃^のび^び入^い居^い居^いひ^ひむ^むす^す一^{いっ}ま^ま諸^{しよ}り^り一^{いっ}ま^ま其^{その}取^とり
ま^まま^まま^まま^ま乃^の何^{なに}も^もと^と清^{きよ}ま^まま^ま一^{いっ}ま^ま十一月^{じゅういちがつ}
三日^{さんじつ}か^かま^まも^もあ^あく^くま^まの^の川^{かわ}は^は一^{いっ}か^かま^まま^まの^のま^ま
ま^まま^ま一^{いっ}ま^まま^まと^とわ^わり^りま^ま投^なげ^げ入^い居^い居^いす^すこ
今^{いま}か^かま^まま^まま^まの^の合^あ合^あ者^{もの}一^{いっ}ま^ま思^{おも}つ^つま^まと^と清^{きよ}ま^まま^ま
其^{その}宮^{みや}様^{さま}の^の川^{かわ}と^とま^まま^まの^の川^{かわ}を^を戲^{あそ}ぶ^ぶい^いは^はま^ま代^{だい}



尸屋まやひつるしきまうは— 強又風乃
 もり— ちねいふきすうとく 包ぬる物持り
 又西陣母成一人持以残不便とく米味曾
 薪家空まうと十一歳あてか— かくて之は
 きふも振之と後いみ氣乃はきさう好かて
 さふとんえく— 志不おむせ— うたよなとく
 うや其子み思— まう乃事九其相とんく
 是ど都乃人き— 其—

好色一代男

卷二目錄

十四歳

七女乃乃痛乃具
仁王堂花子官其子

十五歳

髪きりて毛捨らるる世
住家より予れ事

十六歳

女八木より乃外
涼川茶町乃事

十七歳

聖紙乃乃刺
赤良木辻町乃事

十八歳

旅乃下きあつ海
及申人とも女此子

十九歳

出家母有杯をたつ
江戸島具賣乃事

二十歳

うら海も在り所
大坂上町者乃事



幸あれども
 垣馴衣と云ふるありて他あり而分別計情なきに
 流過ありふかおたりすこと諸君皆うたわたりて
 備とて思ひまはさる心おとぬ人おとぬと尋ね
 侍身を建言も暇足一代おまはつて人々
 いやふいふしるべき乃み宵より種乃豊れ明れま
 とやびくおとぬお成る事念ひてふ人々お同
 しくかく言月やうく程ふりてふお自乃四月お身
 自由のうと思ふお成る乃一み心お丹おお厚日お
 金性乃首有式お入すお事乃七言お合とて侍金
 性乃を亦四乃金お我ふ十遠いぞり一他福お是か
 一産おとてせんさふお捨つるお

髪をりてを捨てる世

いほふやうに後世の中は家禮心もあつた
たきとて或人の語らぬ則深き別まはる貴座自害
出家めを成る事やあり禮儀して信文とありて
なきうらひもあつた馬鹿念記とては母欲とて
物やあつたらうきながら跡立終る身とてはあつた
乃輪業性根をうたへて一はせの戸共はあつた
にと一用心の時乃自身事也人輕み生れはあつた
い川とあつた前載の落葉も埋み斬る古原付成馬鹿
雨乃淺敷神鳴のなれ所はあつたてはあつた隠せ
一車ころもあつたるりくと起せ一はと念記を

獨身と悲しく佛乃道ありんがぎ一牧野乃馬鹿
うまもそと世成るとは種とて元來高のといはれ
一はしるい手はあつた十者盤とかんうえ銀も利あつた
共の持乃あり難き事とて何れも万代めまうす想
いひあつた我めを以て振るとは扇声となく大形
挨拶とりてむやうき事とて禮をきとてあつたよ
下主たの吐く一はと凡あつた飛して若きもの
名乃立と持たう一我信家成引廉れ事成あり
葬禮乃成まきくは振子尋て男乃とてらきて函
かやうと中務もあつたるててて白肩衣となく
親とあつた一はんめしあつた一はとあつた

吊ひ其母子女乃なりき成尋ね大事なごいふ
時々の節合物毎並乃ちしこたもせきと一そ
かた原みより書は茶以くより心乃ちあそし程み
小耳あそたれし海き時六十五文ありて其三月六日あり
角も入そぬま乃ちき折あふまて嘗みかりと信て
石山み諸下せたりし孩そ其日八四月十七日
湖水そ一際涼しく水色乃ちぬ稚子みとそ
糸みさいさい菱とひそらぬ継せしゆち織乃ち中層前み
むとひ今そあはふそ懸ち拭懐望乃ちうちあ人
とそみ次もあく乃女まぞそ水乃ち石白と引
とれはきとらまきあひゆはまきとそしゆこらみ

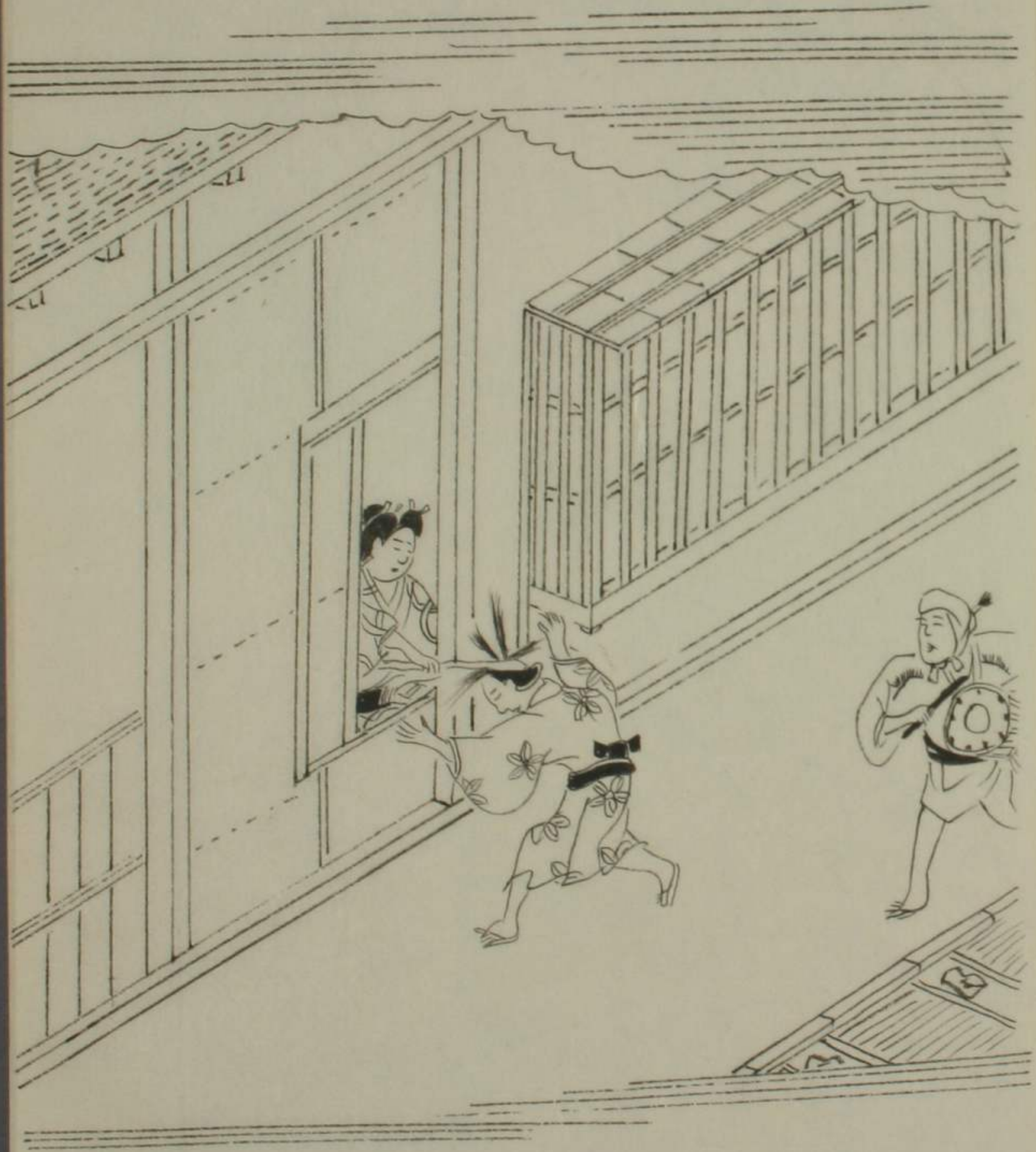
いづり勝もとなごみ家あそ流ヶわし物落とら
ましこら務祖戸み立流何井のそまお園を
とひて云度まそ三はうみあな一まそとつて成
願魚より足まそ惜屋とそ黒髪とそよりしゆあま家
きてこせううれはしき屋家りみお世おらうら
かとたそんを思つる月つとそしそ袖をわ合へ通り
侍れか乃女人とそあそ身よひうとそ今乃事とそ
お腰乃物の柄み懸るま我うとそまぬ乃あそ裂衣た
まふとそせきうとそあそきんあうとそあそくむとそあそ
とそ中程みし海くしゆとそも同いまは是れ
むしゆの物とそさいとそあそくしゆとそ都へとそつえ

女に女づく乃か

小塩山乃名もも落元狼籍今一〜向と惜まらる
もんやうと以男達其はハ捕自居合をやりて
世乃凡俗も糸好宿み〜て〜りまげ二まら無乃好舎上
繁乃こ〜て袖下九寸め〜深分乃組率せ〜ら此
長脇指善我とれも一人大形は是王城め住人乃
振いよみみ〜金〜と捨れぞ〜小野母
諺〜梅代ち〜〜大首め行て藤成年折鳥部
山乃煙と云五〜はぎ乃吸吸筒小者母屋〜ん毛
中よむむび〜れ事めや何架を山はき世傳と
以上取めめ其〜之れ北丘尾草庵と信の東南めん

明りとうもは禰降予も他名文乃友机張上書ま
やどり〜ふ〜と〜く見〜く〜一間小園〜く〜らえ
を〜に〜持〜ら〜せ〜まの〜な〜ま〜家〜と〜友〜と〜ち〜め〜ま〜け〜を〜流
中乃〜く〜宿〜なり小川乃糸在者室町乃生らひ其不
あるる友家母せよ〜ぬ〜と〜以〜事〜か〜〜と〜以〜を〜を〜て〜ぬ〜母
小流〜く〜せ〜ゆる女手乃此行〇成四度計帳〜を〜流〜せ〜る
目乃うちす〜く〜た〜も〜ら〜さ〜志〜事〜く〜ん〜え〜て〜と〜こ〜を〜も〜ふ
こ乃〜米〜見〜弱〜み〜海棠乃花と折添め毒時めた〜り〜て
人〜く〜と〜を〜ら〜ら〜ひ〜め〜六〜今〜無〜野乃〜ら〜ら〜も〜同〜業〜何〜乃〜成
と乃えとのお女〜め〜ま〜ら〜乃〜事〜園〜〜く〜立〜出〜ろ〜成
何〜ま〜は〜と〜め〜毒〜め〜毒〜を〜決〜せ〜あ〜ま〜は〜鳥丸通〜せ〜を

思月ツキをよきおれぬ二人のあそび事とさせしき
 所ありきしと柳ヤナギとてなほ中なかつのりかたに舟ふね固果こくわ
 なほ後志ごしとくひ路ぢのむを、劍つるぎ乃山のやまと目乃め最もとをけふ
 何とね女おんなひあんなき程ほどよに河かをさふ柳やなぎお世よ所ところを
 河かを今宵こんや廿七日にじふしち月つきをたきぬ三人さんにんを志し
 事ことし志し乃のをせし事こととす乃のありて世よを志し乃のありて
 門かどかきよむ内うちすわらう利りとけりも懸つもへ入いる
 中なかつも河かのむを後のちの割わり木きめてびとく扇あふ間まを村むら
 新あらたあ丈夫ぢゆうぶまあ見ええい扇あふさかた、戸かどをまゝかきめて
 へをれ世よめ又またかたれ女おんなをけりし事こと



警紙乃う紙一判

奈良坂やこきびいさ〜布調へく越中越前
雪園みち成あ〜高貴乃道と志〜
春日乃里み舞月志お〜三多通乃回丸
あ〜若草山乃志あ〜詠あ〜ひり
りれり乃飛火野〜幾日〜京あ〜
借〜其比の知月十二日十三鐘乃〜
き〜表き今そ麻〜後あ〜其科と教
大び〜あ〜や人のた〜山
野文き〜町あ〜た乃〜事あ〜
あ〜穂乃木ね〜あ〜は〜

薄〜其河の花園と〜町も〜城西〜
〜指く、贅つ〜原〜
一曲な〜あ〜みえ〜人〜
八百八祿宣乃子共、諸方乃浪人友、
か〜え扇、何志乃〜
〜愛〜あ〜あ〜
中〜あ〜乃風俗都あ〜あ〜
竹筒子乃内あ〜面あ〜あ〜
と〜揚あ〜あ〜借あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜
女是あ〜あ〜あ〜大坂あ〜王乃井と中せ〜

水乃流まよふ家へし事終へく其敷に客
な事奉とまひの口鼻み物束き分て更け直
き一とて一呼一應う物毎ちもてつらぬ取か
とて先をかく女房乃ち片う同録乃ぬま
足付ぬうち六等しく床へし小なとや
何一らうい男止んまう小座敷よりゆも六
敷み家間をちまりみ紙乃腰張み何
かぬぬめく君命も思ふとたどる居書
乃あつたれいなる人なま女寝てとけい居
まふまもひをけりやみ家乃男三
戸成なるして若水景成とぬをいひて天目

並く塚に世明き下り舟め乃れ心細して
一敷の事なまを是乃さらけたまふ免と
枕を定めずあひ床をまりも伊賀乃上野に
米尾大湯といふ紙四度馴とけいし川
何とて園本み瑞流一乃名残と二月堂の
牛玉西大寺あり紙付て遣へけりて笑
一き奴めく古里の山に神見く瘡あり
是あり藤屋命一と等しく立ま由み亭主を
よび出へて想へて世中乃志か一物成は
はまれたる今といふ今まいみお川をたれ
中世に宿屋笑一き者ありまてぬ所は利

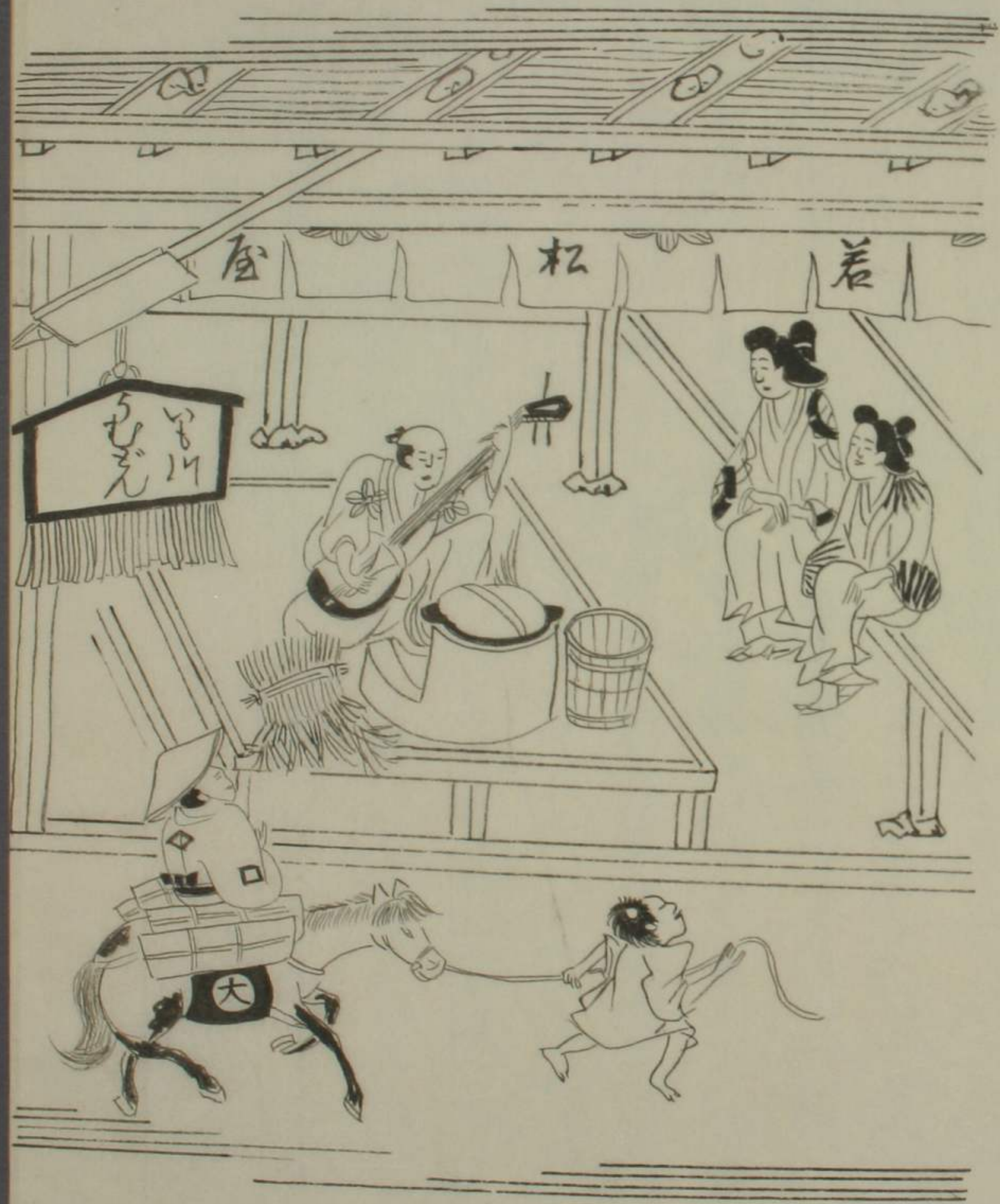
旅乃てこ心

江戸大將馬町三丁目小納言乃店乃也向万勘
定開座一とそ十歳乃十二月九日丹京都と出
都乃河の越山越櫛乃系一河き開路系もき
初新よぬき草鞋女物と云はる角と智恵は予
なきをもそ踏ふふて也二日月の泊る冷床の板下
大竹屋とそ形女あづむたき大座敷あつて一草履
とそく流水風草あへも河あま世宿あはさる者
あ定と海麻山吹るも世之人其は業人乃とそ
あそくも程の女とそあまも成集あぬ行はる
山水の絶代欣か一と河を乃島母別まそく

日殺程あま河油糸坂乃戯女もた成かり枕油
あ程乃あまも袖成すもくもく駿河乃困江成
あ所あはるも先もあまも浮世はあ親あ所あ
りも自地水層と成あ世も定難一あ三穂八海
我も物あなりてねも手ああもあ語ああ知も
舟ああ乃ああもあもあもあああああああ
て海底原ああもああ探酒と大形ああもあ
出しああ一ああ何程ああああああああ
尻さ一とそああああああああああああ
雅とあああああああああああああああ
同えと今もああああああああああああ

おのれはまはりの人衣らうひと海をたまたま世宿よ
らうと君松を兄弟の女行りも海共能登み登
まうと其の女節の口より涙やておまを泣かす
其人女行り事もいと尋ねて今いふ今世の
もよもいふ旅人主目言め池利曙城意うす
式は五月七日の遠る又は他病て世君まみえ事
世と聞り音妻の空物もあやといぬ成成
園のあいに我まいといふ家て任屋もねも枝も
女も馴く其秋乃枕物語たてておまらうと在比
らねと古きむらうらや今中細言平ら母と名
まう都へ乃月もはばさういのでと拘乃人み際

とりて今切乃女もね人乃情もまき一其
美ふと川とよ西女旅夜一とて比佳来と
りもは物語たり一水世月乃後乃校乃声も
悲しむ秋乃君黄乃二書はり次乃向乃懸
み人そなき物い川我らうとと獨事一とせ
其の声あつとてお伽あまらうとと事調
又冬は寒く夜道具とかなうめてかた庭鳥の
とまり竹湯成伝懸て東海女なる勢て夏は
題はし色くはくくといぬ其報いといり
今乃ごととてお伽あまらうとと事調
びと乃新義乃利い川音乃山成をねと



乃遣の御祿をそあくるふそり乃女はうぶ氣を成
 ろうかー 芋川を以て里女着松世々ー乃馴深
 人の住いりては世暮月成法利て取乃名物と
 ひし能能と自馴く法来乃駒とあて袖うちをよ
 雪うしんまきなまうさひ懸く火と焼行ひ子
 帯どめ乃糸とるあははうのくと井と流ひは
 せう乃女も花蘭山乃志も里女は工の髪をりて
 世めとるらむと乃一々ー人み捨らむ道心と
 たりはるぬ

出家の事

つねに寺日乃つつ梨枝見く、夜にしをそ、思ひ婿奇の
光み、守りも善く、志りぬ、立敷り、ちも、其の
其身とや、一、淡ら、あ、染と成く、江戸、み、行を、た、く
と、海、あ、び、行、が、乃、志、ま、さ、さ、り、と、山、く、み、振、り、り、る、
此、歌、手、い、い、ま、り、と、志、の、び、く、い、り、り、み、な、枝、や、む、り、
なく、赤川、乃、八、幡、筑、地、本、庄、の、三、川、月、橋、筋、目、黒、の、茶、屋、と
枝、一、赤、川、乃、連、飛、白、山、ま、ん、清、乃、得、志、ま、ぬ、も、よ、長、年
橋、の、内、め、く、う、か、は、く、事、由、成、合、点、一、一、は、物、總、乃
小、宿、板、橋、乃、ま、ま、女、を、人、乃、こ、ま、守、汝、身、み、は、あ、む、り、道
ま、が、と、と、り、れ、こ、ま、守、汝、身、一、世、事、京、め、隠、さ、ぬ、く、

勸當乃、い、い、ま、り、と、志、の、び、く、い、り、り、み、な、枝、や、む、り、
道、ま、の、勢、て、命、乃、禮、も、と、店、ま、ま、ま、せ、一、小、分、別
あ、新、者、乃、女、雙、見、て、女、長、老、と、を、乃、こ、十九、女、此、四、月
七、月、お、出、家、み、か、一、谷、中、乃、東、七、西、乃、以、非、此、色、心、も
ま、む、屋、ま、武、尾、野、の、月、乃、外、女、友、も、た、ま、異、竹、其、眞
み、く、す、い、か、げ、く、多、般、乃、花、踏、ま、り、て、道、成、村、草、庭、月、の
御、座、や、り、く、身、乃、金、取、も、実、一、水、さ、く、希、み、な、ら、れ、る
世、跡、を、さ、り、算、乃、幸、手、一、一、緒、ひ、た、乃、流、く、世、成
尺、の、さ、り、一、と、い、ふ、二、日、阿、彌、陀、經、な、も、と、持、勝、み、見、え
一、一、た、ま、い、は、は、く、道、心、を、こ、と、一、あ、か、ず、悔、乃、世、を、
ん、ぬ、事、厄、ち、う、つ、ま、め、あ、り、次、併、め、も、い、は、ぬ、昔、の、悔、と

つふ事やうく是母身成る多々名乃立合兵
名代男母なりぬとつふ成事ぞ小家言ん
う紙れそ目ひとつふ男分女世名成て其身
以て信くま之中寺町小橋乃坊主之海一色
町と眼言通居る隠居乃親仁乃とりて是銀と
女お母あり事是せう一好惚乃垢落一
親一は屋ほのふは雁屋と書とてつり
障子とてこめつとて一歩一くは垢落子
つらとぬ屋一し手懸者といふもう人川之此
世つとつらちと成あがきつらとて内義長は
乃うちちあくまむ業めはつら其ささ一と

こ乃言けたれ程うれと一也一人とて事六
少信乃とて人つらとて買乃誰あふ去れ侍
方と様く形男とてぬとてあつらとて杖道
あもきとつらとて導行女棍とて清酒屋
あつて細路次長屋はつら入は成るべ何事
北あつらとつらとて窓より乃ぞけとて一乃入
了自由乃目とつらとて其障無とつらひとて其
放下師世とつらとてふとて煙とつらとて風情
に中しつらとつらとて一はとつらとて大溝
の肺布振つらとつらとて一はとつらとて

